

## 僕のご飯

寺方南小学校 六年 九富 晴彦

魚は切り身で泳いでいない。豚肉は飼育小屋で飼われていない。そんなの当たり前だ。

魚が僕らのご飯になるまでは、ほとんどの人が知っているだろう。泳いでいる魚は捕られた後、市場で競りにかけられ、スーパーなどで僕らが買い、料理して食卓にあがる。

丸のままの生きた魚が切り身になるまでの過程も僕は知っている。僕は魚が好きなので、数年前、祖母の家でカツオをさばかせてもらったことがある。海で釣ったカツオを持ち帰り、祖母に教わりながらカツオの身に包丁を入れた。ここがエラ、ここがお腹、と部位をしつかりと見て、お腹の辺りに包丁を入れる。内臓を取り出し、背骨に沿って身を分ける。そうしてできあがったお刺身はとてもおいしかった。

「豚や牛のご飯になるまでは」と聞かれると、僕たちの多くは、きつとなかなか答えられないだろう。牧場などを出てくるときは、生きている豚や牛だ。競りにかけられる市場はどうだろうか。彼らは生き物なのか、食べ物なのか。いつ「お肉」になるのだろうか。

この本を読んで、豚や牛が、と場というところで屠畜されるということを知った。屠畜

は「食用に供する目的で獣畜を殺し、また解体する」作業のことだ。と場の職員が効率よく解体して枝肉という形にする。僕たちがよく見る商品の大きな形になるのだ。

今では変わったが、動物の死に関わり、重労働であるこの屠畜の仕事は、差別を受けている人たちの仕事だったそうだ。自分が嫌だと思ふ仕事を人に押しつけ、そして、その人がその仕事をしているからという理由で差別する。わけがわからない。僕は思った。あまりにも意味がない行動だ。嫌だと思ふ仕事の結果生まれた肉は、嫌だと思わず、むしろ喜んで食べるのに。

このような差別は、今でも僕たちの身近にある。人が自分たちと違うことをしていると、変わったもののようにして見てしまうことは時々あるだろう。自分とは違う人が自分と違うことをするのは、考えてみれば当たり前のことだ。なのに、なぜかそのことを忘れてしまい、差別の気持ちを持ってしまう。周りが自分と同じような態度を取れば、なおさらその気持ちは強くなってしまう。違う意見を持つていたとしても、周りと違う意見を主張することは、ときにとっても難しい。

自分のしたくない仕事をするのは、悪いことなのだろうか。いや、悪くない。むしろ、

感謝すべきだ。自分と違うことをするのは、悪いことなのだろうか。いや、これも悪くない。それを表す言葉もきちんとある。個性だ。今日、僕は食べ物がいろいろな手によって作り出されたことを思い出しながら食べるだろう。それぞれの個性を持った人が作った個性を持ったいのちを感謝して頂きたい。それが僕のいのちになるのだから。

## 珊瑚の島

藤田小学校 六年 岡 柚結

この本を読み終わった時、「胸がいっぱいになる」とはこういうことを言うのかと思った。珊瑚のこと、友達のこと、ルリバーのことを思うと、色んな感情があふれてきた。それぞれがかかえている問題が、沖繩に生まれ育ったからこそのももあり、私が今まで思っていた沖繩とはちがったものだった。

おとし、家族旅行で行った沖繩は観光できる場所もたくさんあり、なによりすきとおったきれいな海があつて住みたいと思うほどだった。しかし、それは沖繩のほんの一部しかみていなかったということを知った。

まず、珊瑚の祖母であるルリバーのこと。ルリバーは本名をかくして生きていた。民謡歌手だから芸名で暮らしているというだけではなかった。沖繩には昔貧しい家の女の人が売られて働かされる場所があり、そこで働く人をジュリと呼んでいたそう。ルリバーは、ジュリの子だったのだ。誰も望んで貧しい生活をしているわけではないのに、差別を受けてきたから子にも孫にも実の母のことを話せなかったルリバーのことを考えるとつらかった。でも、珊瑚に話したことをきっかけにこれからは本名をかくさず生きると言っていて

少しだけつらい気持ちになった気がした。

次に、珊瑚の友達の話。沖繩にはアメリカの基地がある。その程度のことしか私は知らなかった。訓練で戦闘機が小学校の近くを跳んでいることさえも知らなかったのだ。授業中に戦闘機がすごい音で飛んでいくらしい。詩音はこの音がこわかった。基地があるからこそその悩みだ。近くで戦闘機が飛んでいくことを想像するしかできない私だが、想像しただけできようふを感じるし、詩音のようになって当たり前だと思つた。詩音は将来政治家になって、基地を半分にしたいと言っている。ぜひその夢をかなえてほしいと思う。

最後に、主人公の珊瑚の話。沖繩は貧困家庭が多く珊瑚の家もその中の一つだ。そのことをはずかしく思っていたが、くじけることはしなかった。珊瑚は「前向き」という言葉が本当に似合う女の子だと思つた。勉強がきらいでひらがなだらけの作文を書き、バカにされた。しかし、それが漢字を勉強するきっかけになった。オスカルみたいな転校生、月にも今まで自分がどれだけわがままだったのか気付かせてくれたのは珊瑚との出会いだと言われたほどだ。珊瑚の性格だからこそ、周りに友達も集まるのだと思つた。友達からの言葉に言い返すのではなくその言葉を受け止

めプラスにする力がすごいのだ。

そんな珊瑚と珊瑚の周りの友達だからこそ沖繩の「血と涙と珊瑚礁でできた島」という歴史を語りつぎ、沖繩のこれからを今までの上のものにしていくのだろうと思つた。私も次に沖繩に行くときには、前回よりもたくさんのことを感じられるようになっていこう。